



JAグループ青森四連
会長

雪田 徹

新年にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられたことにより、多くの制限が解除され、コロナ禍以前の生活を取り戻す兆しのみえる年でした。

青森ねぶた祭も4年ぶりに跳人（はねと）が従来通りの自由参加となる等、県内各地の催事が従前の形態で開催され、多くの方々に青森の魅力を再び感じていただきました。

今後は、インバウンドをはじめとする需要が増加することが見込まれており、適切な対応が重要となります。政府は、「新たな観光立国推進基本計画の素案」をまとめ、訪日外国人客の一人当たりの消費額をコロナ前よりも増加させる「高付加価値化」を目標の一つとして掲げています。

本県の高品質で良食味の農畜産物は、海外でも高い評価を得ており、まさにこの高付加価値化に取り組む必要があります。

一方、高品質な農畜産物の生産に水を差したのが、観測史上最高といわれる夏場の気温の上昇でした。8月には弘前市で観測史上最も高い気温39.3度を記録したことは記憶に新しいところです。そして県内各地で猛暑日が相次ぎました。この影響で、令和5年産米は白未熟粒などの高温障害が多発し、1等米比率は県平均で68%となりました。さらに本県の代表的な農産物である、長いも、りんごも高温障害による品質低下、鳥獣被害等の要因も相まって、生産量の減少がみられ、今後、農家組合員の所得やJAの販売事業への影響が懸念されます。

さて、わが国の「食」を取り巻くリスクがコロナ禍やウクライナ紛争により顕在化しました。一昨年から、肥料や飼料といった生産に欠かすことのできない資材

の高騰・高止まり、さらには、こうした生産コストを農畜産物の価格に転嫁しづらいということもあり、農業経営は、危機的な状況が続いております。

そこで、国際情勢に影響を受けない、食料安全保障の強化が必要となります。また、生産基盤が弱体化する中、再生産可能な農業所得による農業経営の持続性を確保する必要があります。そしてこれらのリスクを、国民・県民の皆さまと共有し、課題を解決していただくという機運が求められます。

幸い、JAグループがかねてより発信しておりました、「食料安全保障」への機運が高まっていることも事実であります。これまで取り組んできた「国消国産」の意義等の情報発信は、非常に時機を得たものであると考えております。今後もより一層、多くの皆さまと一緒に、食と農の未来を考えていただけるよう、そして、わが国および本県農畜産物を手に取って、選んでいただけるよう、JAグループ一丸となって強化してまいります。

また、JAの健全な経営基盤の強化も喫緊の課題となっております。改めて収支環境、機能の総点検を行ったうえでの経営戦略が必要になります。そのためには、内部統制システムの実効性の向上、コンプライアンス・ガバナンス態勢がしっかりと機能することが求められます。

そのうえで、協同組合の役割発揮に向けた組織基盤強化をさらに進め、地域共生社会の実現と地域への貢献がなされ、JAの経営基盤の確立、強化との相乗効果の発揮をめざしたいと考えております。

本年は、第30回JA青森県大会を開催する年となっております。大会議案の検討にあたっては、現在、我々を取り巻く環境をふまえた新たな課題に対応するとともに、JAグループの組織基盤・経営基盤強化および各事業の発展に向け、第29回JA青森県大会決議の実践状況をふまえ、進めてまいりたいと考えております。

本年の干支は「甲辰（きのえ・たつ）」で、これまで陰になっていた部分にも日が当たり、大きな成長を遂げる年といわれております。

本年が「向上の一年」になることを祈念するとともに、組合員、JA役職員の皆様のご多幸とご健勝をお祈り申しあげ、念頭にあたってのご挨拶とさせていただきます。

J A 組合長・常勤役員 および中央会・連合会代表者等紹介

新しい年を迎え皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

J A グループ青森

● 青森地区

J A 青森



はせがわ はる き
長谷川 春 樹
代表理事組合長



しか ない かつ ゆき
鹿 内 克 之
代表理事専務
(総務担当)



た なか まさ てる
田 中 正 輝
代表理事常務
(信用担当)



さい とう みつ ろう
齊 藤 光 朗
代表理事常務
(経済担当)

J A 青森



なり た しん いち
成 田 真 一
常勤監事

● 五所川原地区

J A つがるにしきた



やま なか みつ はる
山 中 満 春
代表理事組合長



なり た はる みつ
成 田 春 光
代表理事専務



お の しん こ
小 野 信 吾
代表理事常務
(信用担当)

J A つがるにしきた



かな ざわ さかえ
金 澤 榮
代表理事常務



き むら まさ ひろ
木 村 正 祥
常勤監事

J A ごしょつがる



やま もと やす き
山 本 康 樹
代表理事組合長



さい とう かつ のり
齊 藤 勝 徳
代表理事専務
(信用担当)



の ろ しげ まさ
野 呂 重 正
代表理事常務
(経済担当)

J Aごしょつがる



みうら かつ ひろ
三 浦 勝 裕
常勤監事

弘前地区

J Aつがる弘前



あま ない まさ ひろ
天 内 正 博
代表理事組合長



お やま さとる
小 山 悟
代表理事専務



まる おか よし あき
丸 岡 義 昭
代表理事専務

J Aつがる弘前



おお た しゅん いつ
太 田 俊 逸
信用担当専務



なか た たく ひこ
中 田 拓 彦
常勤監事



おお ば つとむ
大 場 勉
代表理事組合長



み かみ りゅう き
三 上 隆 基
専務理事



やま うち とし ひこ
山 内 利 彦
理事金融共済部長
(信用担当専任)

J A津軽みらい



く どう とし ひろ
工 藤 俊 博
代表理事組合長



なり た よし ひと
成 田 義 仁
代表理事専務
(総務管理担当)



ふく ばら みね ひと
福 原 峰 人
代表理事専務
(信用担当専任)



むら かみ かつ のり
村 上 勝 憲
代表理事専務
(販売担当)



か どう かず お
加 藤 和 夫
代表理事専務
(営農購買担当)

J A津軽みらい

J A常盤村養鵜



いち のへ まこと
一 戸 誠
常勤監事



いし ざわ せい こう
石 澤 清 行
代表理事組合長



の と や とも たか
能 登 谷 知 剛
専務理事



● 十和田地区

J A 十和田おいらせ



はたけ やま かず お
 畠 山 一 男
 代表理事組合長



と さわ やす ひろ
 斗 澤 康 広
 代表理事専務



こ むかい ゆたか
 小 向 豊
 常務理事
 (営農経済担当)



ば ば さと み
 馬 場 聡 美
 常務理事
 (信用担当専任)

J A 十和田おいらせ



たか むら つかさ
 高 村 司
 常勤監事



おと べ てろ お
 乙 部 輝 雄
 代表理事組合長



てん ま かず ひろ
 天 間 一 博
 代表理事専務
 (営農経済担当兼務)



むら やま じゅん いち
 村 山 淳 一
 代表理事常務
 (金融共済担当)



の だ がし ら かず よし
 野 田 頭 和 義
 代表理事常務
 (酪農畜産担当)

J A ゆうき青森

J A ゆうき青森



なり た たかし
 成 田 高
 常勤監事



なか やしき かず お
 中 屋 敷 一 夫
 代表理事組合長



いま で が わ ひろし
 今 出 川 弘
 代表理事専務



こ ひ り ま き ま さ し
 小 比 類 卷 正 志
 常務理事
 (信用専任)



すみ いしじろう
 角 石 二 郎
 常勤監事

J A おいらせ

● 八戸地区

J A 八戸



みず こし ぜん いち
 水 越 善 一
 代表理事組合長



お ばら よし ひろ
 小 原 良 洋
 代表理事専務



わか ばやし まさ ひで
 若 林 政 秀
 代表理事常務
 (営農経済担当)



き むら てろ お
 木 村 照 男
 代表理事常務
 (信用・共済担当)

J A 八戸



なか さわ ゆたか
中 澤 裕
常勤監事

● 中央会・連合会

J A 青森中央会



ゆき た とおる
雪 田 徹
代表理事会長



おお ば つとむ
大 場 勉
副会長理事



お やま ち から
小 山 主 税
常務理事



J A バンク 青森



きり はら とよ ひこ
桐 原 豊 彦
支店長



むら た ひろ ゆき
村 田 裕 之
副支店長



おお く ほ まさ や
大久保 正 也
副支店長

J A 全農あおもり



くわ た のり ふみ
桑 田 徳 文
県本部長



ささ もり とし みつ
笹 森 俊 充
副本部長



なり た とみ ひろ
成 田 具 洋
副本部長



ぬま た ひろ ふみ
沼 田 博 文
本部長



か さい しん じ
葛 西 真 司
副本部長

J A アオレン



お がさわら やす ひこ
小笠原 康 彦
代表理事会長



か さい みち ゆき
葛 西 亨 之
参事

(株)青森県農協電算センター



かま た まさ ゆき
鎌 田 政 行
取締役センター長



く どう のり あき
工 藤 憲 明
副センター長



フラッシュ



JA青森

ピーマン・きゅうり部会の講習会および反省会 (11/29)

青森農協ピーマン部会ときゅうり部会は、青森市で今年度の販売反省会および次年度の栽培に向けた講習会を開き、約20人の生産者が参加した。

生産者らは推奨品種を説明した講習会や県内外の販売情勢報告に熱心に耳を傾け、意見や質問を積極的に述べていた。



JAごしょつがる

葉とらず選果 高値に期待 (12/12)

JAごしょつがるは、無袋「ふじ」葉とらずリンゴの選果作業を行った。今期より取扱いを開始した葉とらずリンゴは、在庫数1027箱と少量ではあるが、食味を重視した高値での販売が見込まれている。

次々と選果機を流れるリンゴは、色、糖度、大きさによって選別され、13度以上のものだけが出荷される。

未来のJAを共に (12/8)

JA相馬村は、弘前市でJA常勤役員2人とJA女性部役員6人で、意見交換会を開催した。女性ならではのさまざまな意見が挙がり、りんご栽培からJAカード、職員教育の話題まで幅広く話し合われた。令和6年は女性部・JAとも60周年を迎えるため、田澤真由美女性部長は「総会は地域の皆さまも楽しんでもらえることを考えたい」と意気込む。

JAつがるにしきた



若い世代の意見を課題解決の糸口に (12/12)

JAつがるにしきたは、本店で第1回目の「未来創造研究所」会議を行い、弘前大学農学生命科学部の3・4年生と教員、JAの関係者ら合わせて21人が参加した。

若い世代の提案によりJAの未来を創造し、地域農業の振興、より良いJAづくりに向けた検討を行うことが目的。弘前大学とのコラボは初めてとなる。

JAつがる弘前



トヨタ式カイゼン実施

働きやすい環境構築を (10/30~11/3)

JAつがる弘前の河東地区りんご施設選果場で、トヨタ自動車(株)によるトヨタ生産方式を用いた現場改善(トヨタ式カイゼン)が行われ、同社スタッフが作業の効率化を目的としたヒヤリング調査や視察を行った。

働きやすく無駄の無い職場という視点から、作業員の動きを考慮した物の置き方、作業の段取りなどの改善点を洗い出した。

JA相馬村



JA津軽みらい



販売額4年連続1億超 (12/8)

JA津軽みらいは、本店で2023年産桃精算報告会を開いた。生産者やJA役職員約20人が出席。同年産桃の生育や販売経過、販売額が4年連続で1億円を超えたことなどを報告した。

23年産の販売額は1億4560万円（前年対比115.6%）
入庫数量は3万5804箱（前年対比91.3%）。

JAゆうき青森



ながいもをそのまま陳列 段ボールの有効活用 (11/28)
JAゆうき青森では、ナガイモの袋詰めをレンゴー株式会社が登録商標している「Dejipake」を使用した段ボールに詰めて量販店向けに出荷を行っている。
「Dejipake」の段ボールを使用することで消費者の目を引き、購買喚起の機能を加え、美観性が高く、POP等を用意しなくても活気のある売り場を演出でき、ナガイモの宣伝を図ることができる。



JA十和田おいらせ

すすめ「チャレンジ農福」 相互理解の醸成へ (12/6)

十和田市で、「チャレンジ農福」現地検討会が開かれ、十和田おいらせの農業者や福祉事業者の関係者ら30人が集まった。

参加者は施設利用者がゴボウの袋詰めをする様子を見学したほか、就労支援の種類や取り組みの手順、留意点など意見を交わした。青森県は農業と福祉の輪を広げるモデル事業「チャレンジ農福」に力を入れている。

JA八戸



親子で料理 ネギふんだんに (12/2)

JA八戸は、八戸市で令和5年度キッズあぐり塾の開校式を行い、親子13組、31人が参加した。

親子料理教室も行い、ネギをふんだんに使った「ネギグラタン」や「ネギビビンバ」など4品の調理に挑戦した。親子で試食すると口々に「おいしい」と笑みがこぼれていた。

JAおいらせ



家の光大会3部門で表彰 (12/5)

県農協会館で「令和5年度青森県家の光大会」が開かれ、家の光三誌普及・活用優良表彰において、JAおいらせとJAおいらせ女性部が表彰された。

JAおいらせは「家の光」高率普及優良JA、「家の光」12月号普及優良JA、「ちゃぐりん」8月号普及優良JAの3部門、JAおいらせ女性部は「家の光三誌」普及・活用優良団体の表彰を受けた。

青森県家の光大会

JA青森中央会と県JA女性組織協議会は12月5日、青森市の県農協会館で令和5年度青森県家の光大会を開いた。県内10JAから約130人が参加し、記事活用体験発表や普及・活用優良表彰などを行った。また家の光三誌の活用運動方針などを盛り込んだ「大会申し合わせ」を満場の拍手で採択した。

記事活用体験発表では3人の地区代表が発表。JA青森女性部南地域女性部の安田八重子さんが見事、最優秀賞に輝いた。

安田さんは、冬期間、家に引きこもりがちな高齢者が地区を越えて交流できる「りんごのつどい」を年3回開き、「家の光」の記事を積極的に活用したプログラムを取り入れていることを紹介。家の光の活用を通じた協同活動の成果がよく現れていたという点で高く評価された。

また優秀賞はJA相馬村女性部の田澤真由美さんとJA十和田おいらせ女性部おいらせ町支部の吉田恵利子さんが受賞した。

普及・活用優良表彰では家の光三誌の普及・活動に貢献したJAを表彰した。表彰JAは次の通り。

- ▽「家の光」高率普及優良JA表彰＝相馬村、おいらせ、八戸
- ▽「家の光」12月号普及優良JA表彰＝津軽みらい、十和田おいらせ、ゆうき青森、おいらせ
- ▽「ちゃぐりん」8月号普及優良JA表彰＝ごしょつがる、相馬村、おいらせ
- ▽「家の光三誌」普及・活用優良団体表彰（JA女性部表彰）＝青森、ごしょつがる、つがる弘前、津軽みらい、十和田おいらせ、ゆうき青森、おいらせ、八戸
- ▽「家の光三誌」普及・活用優良団体表彰（JA青年部表彰）＝つがる弘前、津軽みらい、十和田おいらせ



▲最優秀賞に輝いた安田さんⓂ

青森県JA青年大会

県農協青年部協議会は12月8日、青森市の県農協会館で第48回青森県JA青年大会を開き、県内青年部員ら約100人が参加した。

JA青年部組織活動実績発表ではJA津軽みら

い青年部常盤地区の古川英実さん、JA青年の主張発表ではJAゆうき青森耕種青年部の久保田大地さんが最優秀賞に輝いた。2人は1月24、25日の両日、秋田県で開かれる東北・北海道ブロックJA青年大会に県代表として出場する。

古川さんは、青年部員の増加を図るため、現在の活動を仲間、地域貢献、環境保護、人材育成の4本柱で見直すとともに、新たに水稻種子の温湯消毒作業など5つの事業を実施した結果を発表。また各事業を行いながら部員募集を継続的に行った結果、部員数が10年間で10人から25人へ大幅に増えたことや、今後の目標を語った。

久保田さんは、東北町でナガイモやダイコンなどを生産している露地野菜農家。当初、農業をやるつもりはなかったが、宮農大で農家研修で心を大きく動かされ就農を決意。その後も苦悩や葛藤をしながら日々成長し続けている現状を紹介。「歯を食いしばってやり遂げた時に初めて見える景色があり、それがまた自分の成長につながる」と語った。

なお優秀賞は次のとおり。

- ◇JA青年組織活動実績発表
 - ▽優秀賞＝内條冴基
(JA八戸青壮年部田子支部)
 - ◇JA青年の主張発表
 - ▽優秀賞＝齊藤雄太
(JAつがる弘前青年部千年第一支部)
- 同大会では全青協主催の「2023年度手づくり看板コンクール」「PR動画コンクール」の表彰も行った。入賞作品は次の通りで、全青協の同コンクールに推薦する。
- ◇手作り看板コンクール
 - ▽最優秀賞＝JA十和田おいらせ青年部三本木支部
 - ▽優秀賞＝JA十和田おいらせ青年部上北支部
 - ▽優良賞＝JAごしょつがる青年部
 - ◇PR動画
 - ▽最優秀賞＝JAおいらせ青年部六戸地区



▲最優秀賞の古川さんⓂと久保田さん

次世代リーダー育成研修会の修了レポート発表会

JA青森中央会は12月15日、青森市の県農協会館で、2023年度次世代リーダー育成研修会の修了レポート発表会を開いた。県内7JAから約20人が参加し、発表者7人のうち、見事、JAつがる

弘前指導部農業振興課の鶴巻順子副調査役が最優秀賞に輝いた。

鶴巻副調査役は「地域活性化のために～集落営農で拓く未来～」と題して、現状把握から課題を抽出しその課題をそれぞれ分析。その課題解決に向け、「集約化」、「サステナブル農業」などの戦略を提案し、解決することでJAが地域と農業のかけはしとしての役割を果たしていきたいと発表した。

同研修会は、JA全体の経営や戦略などについて企画から実行までをマネジメントできる人材育成を狙いとして東北6県中央会主催で実施しており、2009年度から開始し今年で14年目となる。研修最終日の今日は、受講者全員が、研修で得た知識を自JAの所属部門にあてはめ戦略課題・改革提案をテーマとする修了レポートを作成し、プレゼンテーションを行った。

最優秀賞に輝いた鶴巻副調査役は、県代表として2月15日に開かれる全国発表会に出場する。

また優秀賞にはJA八戸金融部金融課の上山美加子調査役、JA十和田おいらせ総務部企画広報課の縄田尚伸係長、JA津軽みらい石川基幹グリーンセンターの古川純司主任が受賞した。



▲最優秀賞に輝いた鶴巻副調査役（右から2番目）

青森県「ごはん・お米とわたし」作文・ 図画コンクール

JA青森中央会は12月16日、青森市のホテル青森で、第42回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール表彰式を開いた。

作文部門で大柳裕也くん（青森市立長島小学校1年）の「おにぎりだいすき」、図画部門で加賀愛唯さん（八戸市立吹上小学校4年）の「さくらの下でお弁当」が最高賞の青森県知事賞に輝いた。

同コンクールは、お米・ごはん食の大切さを、小中学生に理解してもらうことを目的に毎年実施しており、23年度は作文部門で244点、図画部門で207点の応募があった。

大柳くんの作品はお母さんの作ってくれるおにぎりについての作文。自分のために家族が心を込めて作ってくれた、温かい思いにあふれた作品として評価された。

加賀さんの作品は満開の桜の木の下で家族そろって美味しいおにぎりやのり巻きのお弁当を広げて食べている作品。楽しそうな表情や特徴をとらえて、水彩絵の具とクレヨンを用いて丁寧に描いている点が評価された。

その他、入賞者は次のとおり。

◇青森県教育委員会教育長賞

▽作文部門＝平井朱莉

（青森市立横内小学校5年）

▽図画部門＝免内蒼士

（七戸町立城南小学校1年）

◇青森県農協中央会会長賞

▽作文部門＝橘如花（八戸市立第二中学校2年）

▽図画部門＝及川明李咲

（八戸市立明治中学校1年）



▲作文を朗読する大柳くん



▲受賞した小中学生ら

行事（1/10～2/10）

1月

10日 定例理事会（県農協会館）

10日 県連役員・運営委員体制等にかかるJAおよび県連代表者会議（県農協会館）

10日 県参協定例会（県農協会館）

16～17日 監督者研修会2（県農協会館）

17日 会計制度基礎研修会（県農協会館）

17日 第4回りんご栽培技術現地研修会（JAつがる弘前 河東地区りんご施設）

19日 新採用職員フォロー研修会（県農協会館）

24日 全中地区別JA組合長・会長等会議、地区別大会実践トップフォーラム（仙台市）

26日 営農指導員認証試験（県農協会館）

26日 第3回JA直売所協議会・研修会（県農協会館）

2月

1日 農協内部監査士検定試験（県農協会館）

5日 県女性協第6回定例理事会（県農協会館）

7～8日 管理者研修会2（県農協会館）

8日 定例理事会（県農協会館）

乃木坂46と一緒に学ぶ「**国消国産**」

乃木坂46と一緒に「国消国産」を楽しく学べるコンテンツが盛りたくさん！
特設ウェブサイトにてぜひアクセスしてみてくださいね！！



※サイト構成の一部を加工しています

乃木坂46メンバー7人それぞれが“選ぶ楽しさ”や“つくる嬉しさ”などを表現！！

【TikTok】

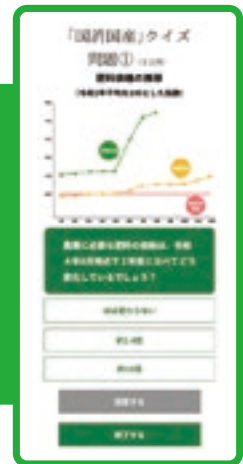
乃木坂46メンバーが「国消国産」の意義やJA直売所の魅力、国産農畜産物等のすばらしさをテンポよく紹介！

【動画】

乃木坂46が出演する28本の動画が勢ぞろい。「国消国産」を学べるものや、メンバーが推し食材の魅力等を全国各地で体当たりレポートした「国消国産を学ぼう！」シリーズなど、多彩な動画をラインナップ！！

【クイズ】

「国消国産」の理解に大切な食や農に関するトピックを題材にしたクイズ。合計クイズ数は21問！分かりやすい解説付き。新しいクイズも順次公開！！



※2022年クイズの内容を加工しています



乃木坂46 国消国産



JAグループ

耕そう、大地と地域のみらい。

46
乃木坂

2023年度 農業法人現地研修を実施

農林中央金庫青森支店では、11月20日～12月1日に、新採用職員3名を対象とした「農業法人現地研修」を実施した。

本研修は、「農業法人の現場を知ることを通じて、農林中央金庫に求められる金融・非金融面のサポートについて考える」ことを目的に、県内の長芋加工会社の協力を得て実施したもの。

研修では、長芋の収穫⇒洗浄⇒皮むき⇒とろろ加工⇒箱詰など、同社の主力商品である「冷凍長芋とろろ」が出荷されるまでの一連の作業を体験し、各作業工程の中で行われている商品価値を高める工夫や消費者に安心・安全な商品を届けるための徹底した商品管理のあり方などを学んだ。

また、流通の現場である青果市場で仲買人らの競りを見学し、生産者と消費者をつなぐ仲卸の役割について理解を深めた。

研修最終日には報告会が行われ、実質11日間にわたる研修の成果を発表した。

当支店では、新採用職員育成の一環として、本研修のほか、JAおよび組合員の現場を体験する「JA現地研修」も実施している。



▲長芋の皮むき作業をする研修生

2023年度 防犯訓練を実施

農林中央金庫青森支店では、12月19日に青森警察署みなみ交番の指導のもと、2023年度の防犯訓練として窓口強盗襲撃模擬訓練を実施した。

訓練は、二人組の強盗が来店客を人質に窓口に見られ、現金を強奪して逃走するという設定で行われた。

訓練が始まると、強盗役の警察署員の怒号で事務室内は緊張感に包まれたが、参加した職員はそれぞれの持ち場で決められた役割に基づいて冷静に対処し、訓練は無事終了した。

その後、みなみ交番の石田良介署長による講評と防犯指導が行われた。主な指導内容等は次のとおり。

- 犯人の特徴を正確に掴むために、誰が犯人のどこを（何を）観察するのか、常日頃から話し合っておくこと。

- 防犯器具のさすまたは、犯人に近づきすぎないように器具の持ち方に注意が必要。また、犯人と間を空け、顔や足元（膝カックン）を狙うのが効果的。
- 反社会的勢力が疑われる来店客に対しては、決して迎合せず、毅然とした対応を心掛けるとともに、万一に備えて警察に通報すること。

当支店では、お客様に安心安全にご利用いただくために、犯罪の未然防止や有事の際の適切な対応につながる防犯訓練を定期的実施し、支店全体の防犯体制強化と職員の防犯意識向上に取り組んでいく。



▲来店客を人質に現金を要求する犯人役

行事（1/10～2/10）

農林中央金庫

1月

- 10～11日 ライフイベントセールスリーダー養成講座第4部（県農協会館）
- 12日 青森県JA信用担当部長会議（ウェブ会議）
- 17日 JA信用事業における反社会的勢力対応研修（ウェブ会議）
- 18日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（ウェブ会議）
- 23日 第3回証券外務員・内部管理責任者資格試験（県農協会館）
- 23～24日 相続実務研修（ウェブ会議）
- 28日 F P技能検定試験（各会場）

2月

- 3日 信用事業業務検定試験（県農協会館）
- 6～7日 相続実務研修（ウェブ会議）

農協電算センター

2月

- 8日 定時取締役会（県農協会館）

主要やさい販売対策会議

JA全農あおもりは11月27日に東京都江東区で、28日に福岡県福岡市で主要やさい販売対策会議を開き、全国各地の青果会社や県内JAから代表者らが出席した。ながいもをはじめとした令和5年産主要やさいの有利販売に向け、作柄状況の共有や販売対策について協議した。

ながいもの5年産の出荷計画数量は、前年産を約75万ケース上回る、240万ケース（前年産対比145%）。販売目標価格は3500円に設定した（前年産対比86%）。

5年産の作柄は、干ばつ傾向によりいも長が長く、3L以上の発生率が高い。全体的に細長い形状が多く、曲がりによる等級落ちや、掘取りなどにおける折れの発生が懸念される。収量は豪雨災害で極端に少なかった前年を上回る見込み。

重点市場に対する計画出荷を基本としながら、発生割合の高い4L・3L級の太物について予約相対取引や輸出向けの対応に積極的に取り組んでいく。また、下位等級品については、業務加工需要や産地パックの拡充を図り、適正価格への理解醸成に努めることで生産者の所得向上を図る。

にんにく・ごぼうについても、5年産の販売経過について振り返るとともに、今後の販売対策について協議した。

また、やさいの輸送についても協議し、2024年問題へ向けた取り組みなどを共有した。

全農あおもり笹森俊充副本部長は「2024年問題についてはまだまだ課題がある。本会の方向性を示し、全国の青果会社にこれまでどおり流通させる最善の方法について今後も協議し取組んで



▲協力を求める笹森副本部長

いきたい」と話した。

また、「主要やさいについては、ながいもは新年産の計画数量も固まった。にんにく・ごぼう共に今後の本格出荷に向け対策を協議し、皆さんと共に目標を達成したい」と協力を求めた。

リゾケア試験成績検討会

JA全農あおもりは11月30日、農協会館（青森市）で「リゾケアXL試験成績検討会」を開いた。各JA営農指導員と生産者が出席し、湛水直播コーティング資材「リゾケアXL」を用いた栽培の生育状況や収量など結果を報告した。

試験は県内12か所の圃場で行い、「まっしぐら」を主とした2品種を播種した。いずれの調査地点も苗立ちは良好であったが、生育は地点によってバラつきがあり、茎数は穂数がやや少ない地点も見られた。収量は概ね8～11俵とやや少なく、鉄コーティング栽培と比較した十和田市および田子町では両地点ともにリゾケア区の収量が多かった。

全農あおもり営農購買部小田桐聡次長は「水田転作を考慮した生産販売対策の確立、省力化・低コスト生産技術の普及などへの取り組みが喫緊の課題となっている。」と話した。また、「一つの解決手段として、湛水直播栽培に焦点を当て、各JA管内で試験した『リゾケア』の試験成績について協議したい」と協力を求めた。



▲試験結果を確認する出席者ら

ニッポンのごちそうラジオ

JA全農あおもりは12月4から6日にかけて、

ラジオ番組内「#ニッポンのごちそう」コーナーで青森県産米「はれわたり」の魅力を発信した。FM東京・大阪・愛知の全12番組で実施した。

番組では「水分をたっぷりと抱え込むことができるので、炊き上がりはぷっくりとした粒立ち」など特徴を紹介。令和5年秋に全国デビューした新しい品種をPRした。

FM東京の番組「ONEMORNING」のパーソナリティを務めるタレントのユージさんとフリーアナウンサーの吉田明世さんは番組内で試食。「噛めば噛むほど甘みが広がる」「粘り気や甘みの後に、すっきりとした後味が感じられる」などと好評であった。

放送後に、各番組のXアカウントでプレゼント企画を実施。はれわたり2キロを抽選で12名様に贈る。

同コーナーは、JA全農が提供するもので、毎月、全国の旬の農畜産物等を紹介している。



▲ラジオではれわたりをPR

青森フェア in 鹿児島

JA全農あおもりは12月9日・10日の2日間、鹿児島市のおいどん市場与次郎館で、青森県産品の販促イベント「青森フェア in 鹿児島」を開いた。



▲県産品を買い求める買物客

JA鹿児島県経済連とのコラボフェアは4回目。

同フェアではりんご、にんにく、ながいも、精米など県産農産物やその加工品を26品目販売したほか、王林を使用したりんご飴やごぼうの唐揚げ・「鹿児島黒牛」を青森の「スタミナ源たれ」で味付けした丼物など調理販売も行った。そのほかブランド米「青天の霹靂」やりんご、ジュースの試食・試飲を実施し、来場者に県産品の魅力をPRした。

購入客からは「新鮮なりんごが購入出来てうれしい」「お米が甘くておいしい、帰って炊き立てを食べるのが楽しみ」など声があがった。

あおもり米食べて今だけ。キャンペーン



詳細はこちら



行事 (1/10~2/10)

1月	
10日	運営委員会 (県農協会館)
2月	
8日	運営委員会 (県農協会館)

令和5年度JA共済青森県小・中学生 第67回書道コンクール・第46回交通安全 ポスターコンクール展示会の開催

JA共済連青森は11月25・26日においらせ町イオンモール下田（パセリー菜横広場）で「令和5年度JA共済青森県小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール展示会」を開催した。

会場には、書道半紙・条幅の部、交通安全ポスターの部の中から選ばれた「最優秀賞」、「特選」、「準特選」の81作品が展示され、多くの来場者が会場を訪れた。



▲展示会の様子（イオンモール下田）

共済担当部長会議の開催

JA共済連青森は、11月30日に青森市の県農協会館で「共済担当部長会議」を開催した。

開会にあたり、沼田本部長は、日頃より共済事業全般に対してリーダーシップを発揮していただいていることについて感謝の言葉を述べた。これからの総仕上げであり、正念場となるため、全JAが普及推進目標を達成できるよう全共連とし



▲挨拶をする沼田本部長

ても支援していくと宣言し、挨拶とした。

会議では、①令和5年度目標達成に向けた今後の取組み、②令和6年度事業計画書（素案）、③令和6年度業務計画書（原案）、④令和6年度JA普及推進・保全計画策定にかかる支援、⑤令和5年度共栄火災商品目標達成に向けた今後の取組みについて協議が行われた。

共済事業担当常勤理事会議の開催

JA共済連青森は、12月5日に青森市の県農協会館で「共済事業担当常勤理事会議」を開催した。

開会にあたり、沼田本部長は、日頃から目標達成に向けた推進活動において、後押しをしていただいていることに感謝を述べ、挨拶とした。

本会議は、11月30日に開催した「共済担当部長会議」と同内容の案件にて説明・協議が行われた。



▲挨拶をする沼田本部長

行事（1/10～2/10）

- | | |
|-----|-------------------|
| 1月 | |
| 10日 | 運営委員会（県農協会館） |
| 2月 | |
| 8日 | 運営委員会（県農協会館） |
| 9日 | 拡大共済担当部長会議（県農協会館） |

農業経営基盤強化準備金制度の 改正内容等のお知らせ

経営所得安定対策等の交付金を活用して、計画的に農業経営の基盤強化（農用地、農業用機械・施設等の取得）を図る取組を税制面で支援します。

農業経営基盤強化準備金制度の適用を受けるためには、対象金額について、税務申告の際は、確定申告書に農林水産大臣の証明書の添付が必要となります。

1 適用期限の延長

令和5年度税制改正において、農業経営基盤強化準備金の適用期限が令和7年3月31日まで延長されます。

2 対象者要件の変更

令和5年4月1日以降の対象者の要件は、**青色申告を行う認定農業者**（個人・農地所有適格法人）又は**認定新規就農者**（個人）であって、以下のいずれかに該当する方になります。

- 農業経営基盤強化促進法に基づき市町村が策定する**地域計画において農業を担う者として位置づけられていること**
- 地域計画が策定されていない場合
人・農地プランにおいて中心経営体として位置づけられていること

3 対象資産の範囲の変更

令和5年度税制改正において、**農業用機械・施設等のうち取得価額が30万円未満のものは対象資産から除外**されます。

※この取り扱いは、令和5年4月1日以後に取得するものから適用されることとなります。

4 対象交付金


●経営所得安定対策の交付金

- ・畑作物の直接支払交付金（ゲタ）
- ・米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ）

●水田活用の直接支払交付金

- ・水田活用の直接支払交付金
- ・畑地化促進事業（R4補正予算）
- ・畑作物産地形成促進事業（R4補正予算）
- ・コメ新市場開拓等促進事業

※水田活用の直接支払交付金のうち畑地化促進助成及び畑地化促進事業における「産地づくり体制構築等支援」は対象になりません。

農業経営基盤強化準備金制度に
ついてはこちら 



2023年を振り返る

青森県の農業・JA主要ニュース

2023年の本県農業を振り返ると、過去に類を見ない35度を超える猛暑日が続いたことに加え、雨が降らない日が長期間続いた影響から、県内の農畜産物に被害が発生しました。さらには、長期化するウクライナ情勢、世界的な資源確保競争の激化による生産資材や原油価格の高騰により、食料供給がおびやかされる状況にあります。

このような情勢に対して、JAグループ青森は、県選出国會議員へ食料安全保障の強化、再生産に配慮した適正な価格形成の実現と国民理解の醸成・行動変容への対策など要請を実施しております。

また、JAグループ青森は、「10年後も元気な農業と地域」の達成をめざし、現在実践している取組事項の“さらなる深化”により、私たち自身と、その先の世代に続く“持続可能”な農業と地域の実現をめざすとともに、計画・実践と進捗管理などのPDCAサイクルによる不断の自己改革を実践し、協同組合としての社会的役割の発揮に取り組んでおります。

1月

●東北・北海道地区JA青年大会（1/18・19）
東北・北海道農協青年組織協議会は、弘前市で「令和4年度東北・北海道地区JA青年大会」を開いた。東北、北海道から約160人が参加し、各道県代表者からの発表の他、大会宣言が採択され、3年ぶりの実開催の大会は、コロナ禍以前の人と人との繋がりを直接再確認できる、意義深い大会となった。

2月

●全農高校カーリング大会（2/9～12）
JA全農が特別協賛する「第18回全農全国高等学校カーリング選手権大会」が、青森市のみちぎんどリームスタジアムで開かれた。優勝団体に青森米「3銘柄セット」180^{キログラム}と青森県産りんご「サンふじ・王林詰合せ」5^{キログラム}、「あおもり和牛プレミアム」4^{キログラム}を贈った。

2月

●あおもり食育推進大会2023（2/27）写真①
JA青森中央会は、青森市で開かれた県主催の「あおもり食育推進大会2023」にブースを出展した。「JAグループによる食と農の取組」と題して、県内小学校で実施している「バケツ稲づくり」やJAグループの独自のキーメッセージである『国消国産』をPRした。

3月

●県下JA女性部長・支部長・事務局合同会議（3/15）
県JA女性組織協議会（県JA女性協）は、青森市で、県下JA女性部長・支部長・事務局合同会議と「発達障害を理解する～私たち女性部ができる事～」をテーマに研修会を開き約60人が参加した。講師は青森県発達障害

3月

支援センター「ステップ」の町田徳子センター長が務めた。

3月

●JA青森県青協 通常総会（4/7）写真②
青森県農協青年部協議会（JA青森県青協）は、青森市で2023年度通常総会を開き、役員およびJA青年部長ら約35人が出席した。22年度の活動報告や23年度の活動計画などについて承認し、役員改選の結果、JA十和田おいらせの佐々木祐輔さんを新たに委員長に選任した。

4月

●令和5年度 青森県JA信用・共済事業合同推進大会（4/18）写真③
JAバンク青森とJA共済連青森は、青森市で「令和5年度青森県JA信用・共済事業合同推進大会」を合同開催した。本大会は、信用・共済事業のさらなる実績拡大と相互連携強化を目的に、今回初めて信共合同で開催したもので、県内JA役職員約100名が参加した。

4月

●県JA女性協 通常総会（4/20）写真④
県JA女性協は、青森市で第69回通常総会を開いた。県内JA女性部員ら約90人が参加。23年度の活動計画など全5議案が承認された。役員改選の結果、JAつがるにしきたの松橋久美子さんを新たに会長理事に選任した。

5月

●県選出国會議員要請（5/12）写真⑤
JA青森中央会と県農協農政対策委員会は衆参議院会館で本県選出国會議員7人に「食



5月

料・農業・農村基本法の見直しおよび令和5年度食料・農業・地域政策の推進に向けた要請」を行った。自由民主党の江渡聡徳議員は「目の前の危機を乗り越えることはもちろん、数十年後を見据えた国内の生産基盤強化を実現し、食料の安定供給につなげていく」と力強く述べた。

●全農杯卓球大会青森県予選会（5/13）

写真⑥

J A全農が特別協賛する「全農杯2023年度全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）」の青森県予選会が、黒石市で開かれた。J A全農あおもりは大会に協賛し、優勝者には黒毛和牛サーロインステーキ、2位にパックご飯3銘柄セット（青天の霹靂・つがるロマン・まっしぐら）、3位には飲むヨーグルトセットを贈呈した。

●J A共済きずなの青い森プロジェクト

（5/26）写真⑦

J A共済連青森は、J A共済ビジネスサポート(株)と森林組合あおもりのご協力のもと、平内町で「J A共済きずなの青い森プロジェクト」を開催し、県内J A職員ら16人が参加した。「環境保全活動」をベースに、自然と触れ合う教育の場として、さまざまな体験を通じて、森が地域や農業にもたらす恩恵や役割の理解を深め、参加者同士の絆を深めることを目的に平成29年度から開催している。

6月

●岩木健康増進プロジェクト（6/5～18）

J A全農あおもりが支援する、国立大学法

6月

人弘前大学が行う「肩腱板損傷（かたけんぱんそんしょう）」研究のMRI検査が、弘前市で実施された。肩腱板損傷は放置していると治療が困難となるため、全農あおもりでは今後広く情報発信し、生産者の認知向上と早期受診による営農継続を図っていく。

●農政セミナーおよび第1回営農担当部課長会議（6/13）

J A青森中央会は、青森市で農政セミナーおよび第1回J A営農担当部課長会議を開いた。営農担当部課長ら約20人が集まり、令和5年度の農業支援事業に関する取組内容について協議した。

●ハウス食品 県知事表敬訪問（7/10）

写真⑧

J A全農あおもりとハウス食品は、宮下宗一郎青森県知事を表敬訪問し、県産夏野菜を使用したオリジナルカレー「青森のうまいもの彩り野菜のキーマカレー」を紹介した。試食した宮下知事は「ながいもの食感が良くカレーに合っている。ピーマンも彩りが良く夏カレーらしさがある」と絶賛した。

7月

●令和5年度農業所得向上祈願（7/12）

写真⑨

県農協農政対策委員会は、青森市で令和5年度「農業所得向上祈願」を行なった。神職が祝詞奏上や鈴払いの儀を行った後、常任委員ら17人が神殿に玉串をささげ、県内農作物の豊穰、農畜産物価格の上昇、農作業の安全を祈願した。





7月

●大雨で水田に水引けず JAが現場を視察 (7/19) 写真10

西津軽郡深浦町は記録的大雨に見舞われ、15日、24時間に降った雨量は171.5㎜と観測史上最大を記録。雨の影響で、農道の崩落や川の護岸が崩れるなどの被害があった。JAつがるにしきたは、役職員が深浦町の現場を視察し、被害状況を確認した。

8月

●令和5年度りんご販売懇談会 (8/22)

JA全農あおもりは、弘前市で令和5年度りんご販売懇談会を開き、事業計画や取扱対策について報告した。令和5年産は系統集荷765万箱(1箱20キロ、前年産比28万箱増)を目指す。販売計画は1250万箱(1箱10キロ、前年産比15万箱増)に設定した。

●県養鶏協会へ470万円贈呈 (8/23) 写真11

県農協農政対策委員会は、青森市で22年度に発生した鳥インフルエンザなどの被害に対するJAグループ支援募金を県養鶏協会へ470万円を贈呈した。県養鶏協会の佐々木健会長は「採卵鶏についての支援募金は初めて。役職員をはじめ多くの方々からいただき大変感謝している。有効に使わせていただきたい」と話した。

9月

●令和5年産米の初検査 (9/9・11・12) 写真12

9月9日のJA津軽みらいを皮切りに米の検査が始まった。11日はJAつがるにしきたが「青天の霹靂」36俵(1俵60キロ、約2.16トン)の初検査を行い、未熟・胴割粒が平年に比べわずかに多く混入していたものの全量

9月

1等となった。12日にはJA十和田おいらせで初検査が行われ「まっしぐら」42俵について胴割粒の発生があったものの規格内により全量1等となった。

●はれわたり販売スタート (9/26) 写真13

JA全農あおもりは、今年から全国デビューする「はれわたり」の精米を行い、県内各スーパー・量販店などへの納品を始めた。精米は青森市の全農あおもりパールライスセンターで行われ、初日は50トンの精米を行った。令和5年産のはれわたりの精米取扱いは1500トンを予定している。

●異常気象によるキャベツとダイコンの内部障害 (9/26) 写真14

JAゆうき青森管内で栽培されたダイコンとキャベツが、猛暑の影響を受け、キャベツは、枯れた茶色い葉が中にそのまま巻き込む「チップバーン」が発生している。ダイコンは、中が黒く変色する黒芯症が発生しており、出荷ができない状況となっている。この状況を受けて、東北町の長久保耕治町長とJAゆうき青森の乙部輝雄組合長が、被害のあったほ場を視察した。

10月

●組織討議へ向けた説明会 (10/6) 写真15

JA青森中央会は、青森市で食料・農業・農村基本方針改正にかかる重要要請に対する組織討議の説明会を開いた。オンラインを併用し、県内のJA代表ら約80人が参加。討議に向けて、食料・農業・農村基本法関連施策などの具体化にかかるJAグループの重点要請の素案について説明を受けた





10月

●青天の霹靂 新米発売記念イベント

(10/7) 写真16

J A全農あおもりは、令和5年産米「青天の霹靂」を全国一斉に発売し、イトーヨーカドー青森店で「『青天の霹靂』新米発売記念イベント」を開いた。イベントでは新米各種のほか、青天の霹靂を使用した弁当・おにぎりを販売。対象の青森米購入者先着400人にはカットながいもをプレゼントした。

●国消国産 PRイベント (10/16) 写真17

J A青森中央会は、イトーヨーカドー青森店で、国消国産PRイベント「みんなで知ろう！国消国産」を実施した。イベントでは来場者に対し、国消国産PR資材とともに県産農産物（青天の霹靂パックごはん、リングジュース）を配付した。

11月

●大農林水産祭 「J Aふるさと市」

(11/11・12) 写真18

J Aグループ青森は、青森市で開かれた第14回津軽海峡交流圏「大農林水産祭」に「J Aふるさと市」を出展し、国消国産についてのPRや農畜産物・県産加工品の販売を行った。大農林水産祭は、青森の食の魅力を県内外に発信するため、本県の豊かな農林水産物や加工品、ご当地グルメなどの販売、さらに南北海道からの出展商品を紹介・販売するイベント。

11月

●青森人の祭典 (11/11・12)

J A全農あおもりは、東京都の上野恩賜公園で「2023青森人の祭典」に出店した。祭典は昨年に引き続き、青森県の特産品の販売、観光・文化のPRを行った。当イベントは45団体が参加し、来場者は2日間で11万人と会場は盛り上がりを見せた。県産米の購入者にはパックごはんをプレゼントした。

12月

●青森県J A青年大会 (12/8)

県農協青年部協議会は、青森市で第48回青森県J A青年大会を開き、約100人が参加した。J A青年部組織活動実績発表ではJ A津軽みらい青年部常盤地区の古川英実さん、J A青年の主張発表ではJ Aゆうき青森耕種青年部の久保田大地さんが最優秀賞に輝いた。2人は、秋田県で開かれる東北・北海道ブロックJ A青年大会に県代表として出場する。

●青森フェア in 鹿児島 (12/9・10)

J A全農あおもりは12月9日・10日の2日間、鹿児島市のおいどん市場と次郎館で、青森県産品の販促イベント「青森フェア in 鹿児島」を開いた。J A鹿児島県経済連とのコラボフェアは4回目。同フェアではりんご、にんにく、ながいも、精米など県産農産物やその加工品を26品目販売した





輝き

農林中央金庫 青森支店
JAリテール企画班
じん ひろき
神 大貴 さん

●プロフィール
2022年4月から勤務 大鰐町出身 24歳

働くきっかけは？

大学進学を機に上京していましたが、地元の青森県で働きたいという気持ちを強く持っていました。そんな中、大学時代に学んでいた農業を生かせる仕事につきたいと考え、現職である農林中央金庫で働くことを決めました。

業務内容を教えてください。

JAリテール企画班に所属しており、主に非対面チャネルの推進（ネットバンクやアプリなど）にかかる業務を行っています。そのほか、スマホ教室の調整なども行っています。

働いた感想は？

毎日勉強の連続だと感じています。業務上でわからないことがある際に、自分の勉強不足を痛感します。周りの諸先輩方に助けていただきながら、何とか業務を行っています。

仕事をする上で、日頃心がけていることは？

コミュニケーションをしっかりとることを心掛けています。業務でのわからないことや進捗を共有することももちろんですが、あいさつや雑談など、良い関係性を築くことを意識しています。

特技・趣味は？

趣味は大学時代からしているギターです。休みの日などはギターを弾いたり、好きなアーティストの音楽を聴いたりしています。

あなたが自慢できることは？

カフェオレが好きなので、自作でとてもおいしいカフェオレを作ることができます。

将来の夢は？

農業を支えているJAをサポートできるような仕事をしたいと考えています。また、普段働いていて尊敬している諸先輩方のように、今後入庫してくる後輩から尊敬されるような人を目指していきたいです。

後編 記集

12月下旬、津軽は雪景色一色、冬将軍の襲来！ですね。

今回の写真はラーメンです。言わずとしれた青森市の長尾中華そばです。大野の中央店で朝の7時過ぎ、つまり朝ラーをしてきました。あっさりのちじれ細麺、500円という価格もあり、シンプルで朝にあった一杯でした。実はラーメン好きで濃口系が好きな方ですが、久々に食べた一杯はよかったです。

機会があれば皆さんもどうですか？（ちなみに店の宣伝はありません！）

それでは皆様、「SEE YOU ON FEBRUARY!」（一）



ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧ください。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧ください。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。